

●●● 株主メモ

| | |
|----------------------|---|
| 決算期 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 利益配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 名義書換代理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 (お問い合わせ先) | 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 0120-094-777 (通話料無料) |
| 同 取 次 所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 |

■ 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

公告掲載新聞 日本経済新聞・神戸新聞

■ ただし、貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホームページをご覧ください。
<http://www.nozawa-kobe.co.jp/kessan.html>

上場証券取引所 大阪証券取引所 市場第2部

アスロックマン

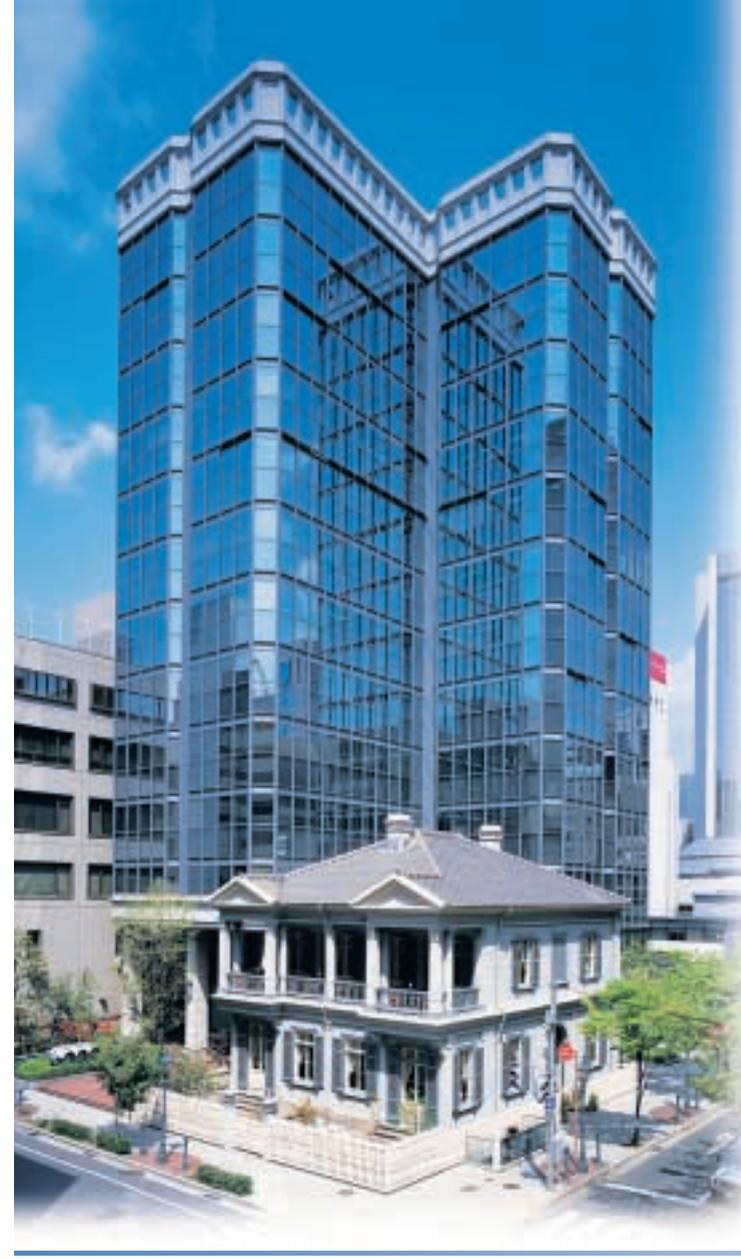


ムセキメン



当社キャラクターのご紹介

美しい都市空間づくりを支える「アスロック」。
その力強さと親しみやすさを表現したキャラクターが「アスロックマン」です。
また、ゼロアスベストを実現したニューテリングのキャラクターは
「ムセキメン」(無石綿)。どちらも製品の認知度アップに一役買っています。



 株式会社ノザワ

第 146 期
中間事業報告書

H17.4.1~H17.9.30

■ この中間事業報告書についてのお問い合わせは右記までお願いいたします。

株式会社ノザワ TEL 078-333-4111

たゆみなき革新的な製品の開発によって、 「やすらぎと安心の創造」をめざします。

ノザワは、建築・住宅・土木の3市場に根を下ろし、不燃建材のリーディングカンパニーとして、革新的な製品を提供し続けてきました。これからも、進取の気性に富んだ技術力を駆使して時代のニーズに適應した製品開発を推進し、「やすらぎと安心の創造」をめざしていきます。

建築向け商品

「アスロック」は、1970年にノザワが日本で初めて押出成形セメント板の量産化に成功した製品です。軽量・高強度、耐火性はもとより耐候性、遮音性、耐震性に優れ、発売以来今日までトップシェアを維持しています。近年では、アスロックの表面にタイルを貼ったタイプやフッ素樹脂加工を施したタイプなど、意匠性の高い製品もラインナップ。豊富な品種で多彩な設計ニーズに応えています。また、優れた機能性を持つ外断熱システム、防火・耐火認定を受けたボード類、各種の耐火被覆材も充実させ、新たな都市空間を築いています。



アスロック 施工例：お台場アクアシティ 施工例：ONE表参道

NOZAWA CORPORATION

住宅向け商品

押出成形技術の進化が生んだ耐火・耐久性に優れた「軽量外壁材」、業界で初めてゼロアスベストを実現した住宅用屋根材、短工期を実現した耐水・耐久・耐水性抜群の低層建物用階段・外廊下部材、遮音性に優れた床材をそろえ、快適な住環境づくりに貢献します。



住宅用軽量外壁材

土木向け商品

軽量盛土工法の化粧、保護材専用パネル「NLBパネル」「New-NLBパネル」は、軽量・高強度で景観性にも優れています。また、道路などの遮音壁専用パネル「アスロック遮音壁」は、遮音効果と経済性に優れ、飛散防止対策も万全です。



New-NLBパネル

混和材

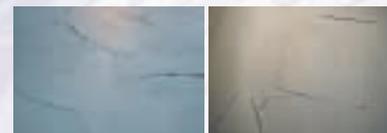
業界に先駆けてゼロアスベストを実現したモルタル専用混和材「ニューテリング」は、従来品と同等の施工性を誇ります。また、工業製品向けの混和材「パネックシリーズ」「SPシリーズ」にも石綿改質技術が活かされています。



ニューテリング

内装左官材料

日本の伝統的な漆喰に、現在の住環境に求められる快適性とシックハウス問題を解決する機能を持たせたのが「ふらの調湿しっくい」です。吸放湿特性とVOC吸着・脱臭機能に優れています。



ふらの調湿しっくい

工事

優れた断熱効果を持つ「コーベックス」(吹付けロックウール)「コーベライト」「ファイレス」「ファイブル」を用いた耐火被覆工事によって、鉄骨建築物の普及に貢献してきました。また、ダイオキシンの除去工事も積極的に推進しています。さらに、増加するアスベスト(石綿)処理のニーズに応じて、処理工事の専門部署「環境システム部」を新たに設置しました。



コーベックス

ファイブル

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、当社第146期中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の中間事業報告書をお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

平成17年12月



代表取締役社長
野澤 俊也

■当中間期の取り組みと成果

わが国経済は、企業収益の改善がみられ、緩やかな景気回復基調にあると思われまます。しかし、建築材料業界におきましては、自動車・デジタル家電業界の設備投資が拡大傾向にあるものの、公共建設工事の減少などによって依然厳しい状況が続いております。

このような状況下、主力「アスロック」の新商品5種による競合商品との差別化を行い、拡販を推進。また、積水ハウス株式会社との共同開発による床衝撃音遮断性能に優れた乾式パネル「シェルシャットスラブ」や、吸放湿性・脱臭性に優れた内装仕上材「ふらの調湿しっくい」を市場投入し、商品群の充実を図りました。

販売部門では販売本部内に「環境システム部」、全国7支店に「環境システム課」を配置して石綿対策工事により一層注力。生産部門ではNNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）活動による品質向上と短納期、コストダウンを推進しました。また管理部門では金融費用の軽減と事務の合理化を図っております。

この結果、当中間期における連結売上高は84億84百万円と前年同期比3億80百万円の増収となりました。また、営業利益は3億84百万円と前年同期比1億77百万円の増益、経常利益は2億89百万円と前年同期比1億46百万円の増益となりました。中間純利益は、固定資産の減損損失を計上した結果、1億7百万円の損失（前年同期は1億78百万円の損失）となりました。



■オンリーワンをめざす「コミットメント213」

全社員で策定した「中長期計画・コミットメント213」—増収増益体質への変革—に基づいて、建設部材・システム分野での開発型企業をめざし、建築・住宅・土木の3市場への安定的な商品供給を推進してまいります。また、経営資源を得意分野・成長分野に集中させて「技術力を背景としたオンリーワン企業」をめざす所存です。企業体質と企業競争力を強化するために、以下の項目に重点を置いた経営を推し進めてまいります。

- 研究開発体制の強化
新商品開発のリードタイム短縮および責任体制の明確化を図ります。
- NNPS
(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)の全社展開増収増益への体質改善を行うとともに、企業を担う“人”の育成を推進します。
- 販売体制の強化
販売体系を建設商品部・住宅建材部・環境システム部の3部体制で構成し、市場別・商品別に責任を明確にします。

■通期の見通し

地球環境問題が注目される状況下、省エネルギーに貢献できる高性能断熱パネル「アスロック断熱+（プラス）」を市場投入するとともに、建築・住宅・土

木の3市場において価格・性能面での差別化商品群の充実を図ってまいります。また、海外市場への進出を視野に入れ、中国に駐在員事務所を開設して市場調査を進めると同時に、韓国でも現地法人と連携し販路拡大をめざします。

また、マインケミカル事業部では石綿や石綿含有建材を非石綿化する石綿改質技術を確立。資源循環型社会の形成に貢献すべく事業展開を進めていきます。生産部門においてはより一層のコストダウン、管理部門においては金融費用・有利子負債の圧縮および役割・成果を重視した人事制度の構築に取り組んでまいります。

このような積極的な事業展開により、当連結会計年度は売上高177億円、経常利益7億円、当期純利益1億円を見込んでおります。

■株主様への利益還元方針

経営基盤と財務体質の強化に向けた内部留保の充実を前提としながら、業績に見合った株主様への安定的な配当の維持および適正な利益の還元を基本としています。今後は更なる業績の向上に努め、経営基盤の強化を図りながら継続的な配当を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中間連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期末 平成17年9月30日現在 | 前期末 平成17年9月30日現在 |
|---------------|-----------------------|---------------------|
| ■ 資産の部 | | |
| 流動資産 | 6,403,052 | 5,923,446 |
| 現金及び預金 | 874,529 | 748,586 |
| 受取手形及び売掛金 | 3,334,741 | 3,123,651 |
| たな卸資産 | 1,169,763 | 964,275 |
| その他 | 1,068,216 | 1,296,060 |
| 貸倒引当金 | △44,197 | △209,126 |
| 固定資産 | 16,176,636 | 16,322,211 |
| 有形固定資産 | 12,779,961 | 13,355,185 |
| 建物及び構築物 | 3,449,015 | 3,733,005 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,657,962 | 1,702,617 |
| 土地 | 7,455,601 | 7,690,107 |
| その他 | 217,381 | 229,454 |
| 無形固定資産 | 83,668 | 93,342 |
| 投資その他の資産 | 3,313,006 | 2,873,683 |
| 投資有価証券 | 2,200,466 | 1,629,789 |
| その他 | 1,332,139 | 1,394,248 |
| 貸倒引当金 | △219,600 | △150,355 |
| 繰延資産 | 9,228 | 14,482 |
| 社債発行費 | 9,228 | 14,482 |
| 資産合計 | 22,588,917 | 22,260,140 |

| 科目 | 当中間期末 平成17年9月30日現在 | 前期末 平成17年9月30日現在 |
|-----------------|-----------------------|---------------------|
| ■ 負債の部 | | |
| 流動負債 | 5,923,763 | 8,264,501 |
| 支払手形及び買掛金 | 2,578,521 | 2,808,392 |
| 短期借入金 | 1,462,050 | 3,668,890 |
| 賞与引当金 | 239,300 | 222,515 |
| その他 | 1,643,892 | 1,564,704 |
| 固定負債 | 9,130,155 | 6,652,731 |
| 社債 | 986,000 | 1,180,000 |
| 長期借入金 | 4,331,950 | 2,063,750 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 2,191,195 | 1,938,904 |
| 退職給付引当金 | 722,523 | 682,491 |
| 役員退職慰労引当金 | 96,117 | 117,368 |
| その他 | 802,369 | 670,217 |
| 負債合計 | 15,053,919 | 14,917,233 |
| 少数株主持分 | — | 237 |
| ■ 資本の部 | | |
| 資本金 | 2,449,000 | 2,449,000 |
| 資本剰余金 | 1,297,736 | 1,190,882 |
| 利益剰余金 | 145,412 | 666,527 |
| 土地再評価差額金 | 3,200,600 | 2,832,097 |
| その他有価証券評価差額金 | 554,776 | 403,748 |
| 自己株式 | △112,528 | △199,585 |
| 資本合計 | 7,534,997 | 7,342,669 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 22,588,917 | 22,260,140 |

■ 中間連結損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
|-----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高 | 8,484,102 | 8,103,475 |
| 売上原価 | 5,954,140 | 5,752,451 |
| 売上総利益 | 2,529,962 | 2,351,024 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,145,805 | 2,144,373 |
| 営業利益 | 384,157 | 206,650 |
| 営業外収益 | 63,907 | 52,538 |
| 受取利息 | 1,827 | 3,712 |
| 受取配当金 | 15,602 | 15,076 |
| 受取賃貸料 | 4,399 | 5,402 |
| その他 | 42,078 | 28,347 |
| 営業外費用 | 158,936 | 116,465 |
| 支払利息 | 62,381 | 72,888 |
| 支払手数料 | 37,058 | — |
| その他 | 59,497 | 43,576 |
| 経常利益 | 289,128 | 142,723 |
| 特別利益 | 262,281 | 35,781 |
| 投資有価証券売却益 | 52,466 | 33,502 |
| 固定資産売却益 | 109,431 | — |
| 貸倒引当金戻入益 | 100,382 | 2,279 |
| 特別損失 | 397,471 | 366,542 |
| 投資有価証券評価損 | — | 518 |
| 固定資産除却損 | 4,377 | 8,503 |
| 固定資産売却損 | 449 | 2,780 |
| 課徴金 | — | 354,740 |
| 減損損失 | 392,644 | — |
| 税金等調整前中間純利益又は中間純損失(△) | 153,938 | △188,036 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 10,990 | 109,646 |
| 法人税等調整額 | 250,890 | △119,266 |
| 少数株主損失 | — | 16 |
| 中間純損失 | 107,942 | 178,400 |

■ 中間連結剰余金計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ■ 資本剰余金の部 | | |
| 資本剰余金期首残高 | 1,190,882 | 1,190,882 |
| 資本剰余金増加高 | 106,854 | — |
| 自己株式処分差益 | 106,854 | — |
| 資本剰余金中間期末残高 | 1,297,736 | 1,190,882 |
| ■ 利益剰余金の部 | | |
| 利益剰余金期首残高 | 666,527 | 617,045 |
| 利益剰余金減少高 | 521,115 | 234,147 |
| 中間純損失 | 107,942 | 178,400 |
| 配当金 | 44,669 | 44,680 |
| 土地再評価差額金取崩額 | 368,503 | 11,066 |
| 利益剰余金中間期末残高 | 145,412 | 382,898 |

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 351,321 | 216,641 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 28,854 | △68,155 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △254,232 | △113,682 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 125,942 | 34,803 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 748,586 | 642,369 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 874,529 | 677,172 |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間単体財務諸表

C L O S E U P

■ 中間貸借対照表

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期末 平成17年9月30日現在 | 前期末 平成17年9月31日現在 |
|-----------------|-----------------------|---------------------|
| ■ 資産の部 | | |
| 流動資産 | 5,502,923 | 5,631,550 |
| 固定資産 | 16,244,626 | 16,497,631 |
| 有形固定資産 | 12,737,197 | 13,355,034 |
| 無形固定資産 | 83,080 | 93,300 |
| 投資その他の資産 | 3,424,348 | 3,049,296 |
| 繰延資産 | 9,228 | 14,482 |
| 資産合計 | 21,756,778 | 22,143,664 |
| ■ 負債の部 | | |
| 流動負債 | 5,141,430 | 8,153,467 |
| 固定負債 | 8,980,790 | 6,565,041 |
| 負債合計 | 14,122,220 | 14,718,509 |
| ■ 資本の部 | | |
| 資本金 | 2,449,000 | 2,449,000 |
| 資本剰余金 | 1,190,882 | 1,190,882 |
| 利益剰余金 | 393,918 | 680,238 |
| 土地再評価差額金 | 3,200,600 | 2,832,097 |
| その他有価証券評価差額金 | 536,408 | 403,748 |
| 自己株式 | △136,252 | △130,811 |
| 資本合計 | 7,634,557 | 7,425,154 |
| 負債及び資本合計 | 21,756,778 | 22,143,664 |

■ 中間損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで |
|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高 | 7,075,031 | 7,137,147 |
| 売上原価 | 4,851,463 | 4,936,822 |
| 売上総利益 | 2,223,568 | 2,200,325 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,963,827 | 2,020,441 |
| 営業利益 | 259,741 | 179,883 |
| 営業外収益 | 78,964 | 75,346 |
| 営業外費用 | 167,793 | 142,359 |
| 経常利益 | 170,911 | 112,870 |
| 特別利益 | 507,194 | 107,295 |
| 特別損失 | 300,366 | 366,542 |
| 税引前中間純利益又は中間純損失(△) | 377,740 | △146,376 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 10,745 | 109,030 |
| 法人税等調整額 | 238,066 | △118,811 |
| 中間純利益又は中間純損失(△) | 128,928 | △136,595 |
| 前期繰越利益 | 633,493 | 532,437 |
| 土地再評価差額金取崩額 | △368,503 | △11,066 |
| 中間未処分利益 | 393,918 | 384,775 |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

▶ アスベスト問題に「処理」と「改質」で挑む。

全国でアスベスト(石綿)被害が深刻化するなか、ノザワは問題解消の取り組みにいち早く着手。「環境システム部」と「マインケミカル事業部」を発足させ、石綿処理と石綿改質の両面から、被害拡大防止とリサイクルに道筋を拓く事業を積極的に推進しています。



アスベスト

石綿処理のニーズに応える専門部署

「環境システム部」

平成17年9月1日に石綿処理の専門部署として販売本内に「環境システム部」、全国7支店に「環境システム課」を設置しました。

ノザワでは、以前より石綿除去と飛散防止工事を積極的に手掛けてきました。新設した環境システム部は、そのノウハウを駆使するスペシャリスト集団として、増え続ける石綿処理工事の需要に対応していきます。



石綿除去工事



吹付け石綿の排出量推定

石綿処理工事

除去工法と封じ込め工法があります。除去工法は、石綿層を下地から取り除く工法。封じ込め工法は、石綿層内に薬液を浸透させ、飛散を防止する工法です。いずれの工法も、ノザワは技術審査証明を取得しています。



石綿の改質・再生を推進する

「マインケミカル事業部」

平成17年4月1日に石綿改質技術の実用化を推進する「マインケミカル事業部」を発足させました。

この石綿改質技術は、石綿を含む鉱物や石綿含有建材のリサイクルに有用な技術です。マインケミカル事業部では、廃棄物の減量と環境保全に貢献すべく、安全で機能性に優れた石綿改質材料の開発をはじめとする事業展開を進めています。



フラノ事業所



改質材料「フォルステライト」

石綿改質技術

石綿や石綿を含む物質を、安全な非石綿材料に改質して再利用を図ることを目的に、ノザワが研究を進めてきた技術。平成14年から3年間にわたり、国の補助金事業として採択を受け、産学官連携のもとで技術を確立しました。



会社概要 [平成17年9月末現在]

| | |
|------|-------------------------------|
| 社名 | 株式会社ノザワ NOZAWA CORPORATION |
| 創業 | 明治30年8月17日 |
| 設立 | 大正2年9月28日 |
| 資本金 | 24億4,900万円 |
| 従業員数 | 375名(連結) |
| 子会社 | 株式会社ノザワ商事 株式会社ノザワトレーディング |

ネットワーク

●本社：〒650-0035 神戸市中央区浪花町15番地 tel/078-333-4111(代)

支店・営業所

| | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 札幌支店：札幌市中央区大通西1丁目14番2(第2有楽ビル) | 北陸営業所：金沢市本町1丁目5番1号(リファール) |
| 仙台支店：仙台市青葉区本町1丁目1番8号(第一日本オフィスビル) | 関西支店：神戸市中央区浪花町15番地 |
| 岩手営業所：盛岡市内丸16番15号(内丸ビル) | 京都営業所：京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町250(ビルHANA) |
| 東京支店：東京都中央区新川1丁目24番8号(東熱新川ビル) | 広島支店：広島市中区小町3番25号(住金物産広島ビル) |
| 高崎営業所：高崎市新町116番1号(第一生命ビル) | 松山営業所：松山市大手町2丁目9番地4(石丸ビル) |
| 静岡営業所：静岡市駿河区稲川1丁目1番32号(グランドウール稲川II) | 九州支店：福岡市博多区博多駅前1丁目4番4号(JPR博多ビル) |
| 名古屋支店：名古屋市西区名駅3丁目10番17号(IT名駅ビル2号館) | |

研究所

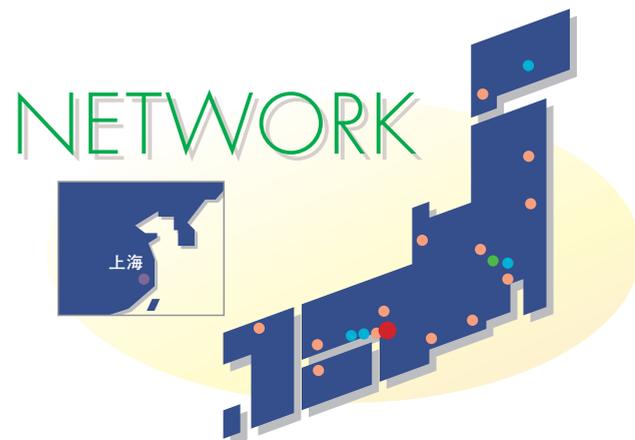
●技術研究所：埼玉県深谷市大字折之口字稜威ヶ原1851番地4

工場

| |
|--------------------------|
| フラノ事業所：北海道富良野市字山部1596番地4 |
| 埼玉工場：埼玉県比企郡吉見町大字長谷1947番地 |
| 播州工場：兵庫県加古郡播磨町古宮 |
| 高砂工場：兵庫県高砂市高須1番1号 |

海外駐在所

●上海駐在所：上海市江蘇路369号 兆豊世貿大廈2503



株式情報 [平成17年9月末現在]

| | |
|--------------|-------------|
| 会社が発行する株式の総数 | 60,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 24,150,000株 |
| 株主数 | 3,205名 |

■大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 議決権比率(%) |
|----------------|---------|----------|
| 日本興亜損害保険株式会社 | 1,749 | 7.52 |
| 日本生命保険相互会社 | 1,744 | 7.50 |
| 株式会社三井住友銀行 | 1,153 | 4.96 |
| 大阪証券金融株式会社 | 1,074 | 4.62 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 724 | 3.11 |
| ノザワ従業員持株会 | 619 | 2.66 |
| CBC株式会社 | 603 | 2.59 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 577 | 2.48 |
| ニッセイ同和損害保険株式会社 | 525 | 2.25 |
| 株式会社トクヤマ | 525 | 2.25 |

(注) 当社は、自己株式788,518株を保有しております。



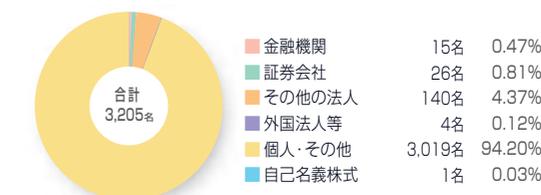
ホームページのご案内

ノザワのホームページでは、最新のIR情報をはじめ、詳細な会社案内、商品案内や施工例などの多彩な情報を掲載。「やすらぎと安心の創造」に邁進するノザワの“今”をお知らせしています。ぜひご覧下さい。

URL <http://www.nozawa-kobe.co.jp/>

■株式分布状況

■所有者別株主数



■所有者別持株数

